



令和8年度
大学地域連携活動支援事業
中間報告会



医療が支える選手の安全
—医療学生とアスリートが共創する地域スポーツの未来形—



2026年10月15日(木)
国際医療福祉大学 理学療法学科
発表者: 竹内 力哉

▣成長期アスリートの活動形態の多様化

(スポーツ庁「運動部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行」)

- ✓部活動,
- ✓スポーツクラブ,
- ✓週末のみ活動する
地域クラブ



▣少子化進行するが、事故の依然として多い

・事故件数： 29万件 ➡重篤な事故： **10万件**

(独立行政法人日本スポーツ振興センター「なくそう！運動部活動の事故. 令和元年）

- ・ボールを介した接触を従う競技 : **52%**
(サッカー, バスケットボール)
- ・バットやボールを使用する競技 : **31%**
(野球, バドミントン)

地域アスリートにおける安全

現状と課題

- ・同様の事故が繰り返される
- ・長い練習時間や従来の
管理体制が慣行化
- ・医療と地域スポーツとの繋がりが乏しい

悪循環



重篤な事故

医療における安全管理

- ・ハインリッヒの法則
(1:29:300の法則)
- ・インシデントレポート

※ 記載項目

発生日時

発生内容

発生後の対応

再発予防策など



行政・競技団体・チームにおける取組み

- **推奨**：スポーツ庁
スポーツ施設への
AEDの設置



- **推奨**：SG基準
防具は、3年を目安に交換
基準に適合した製品



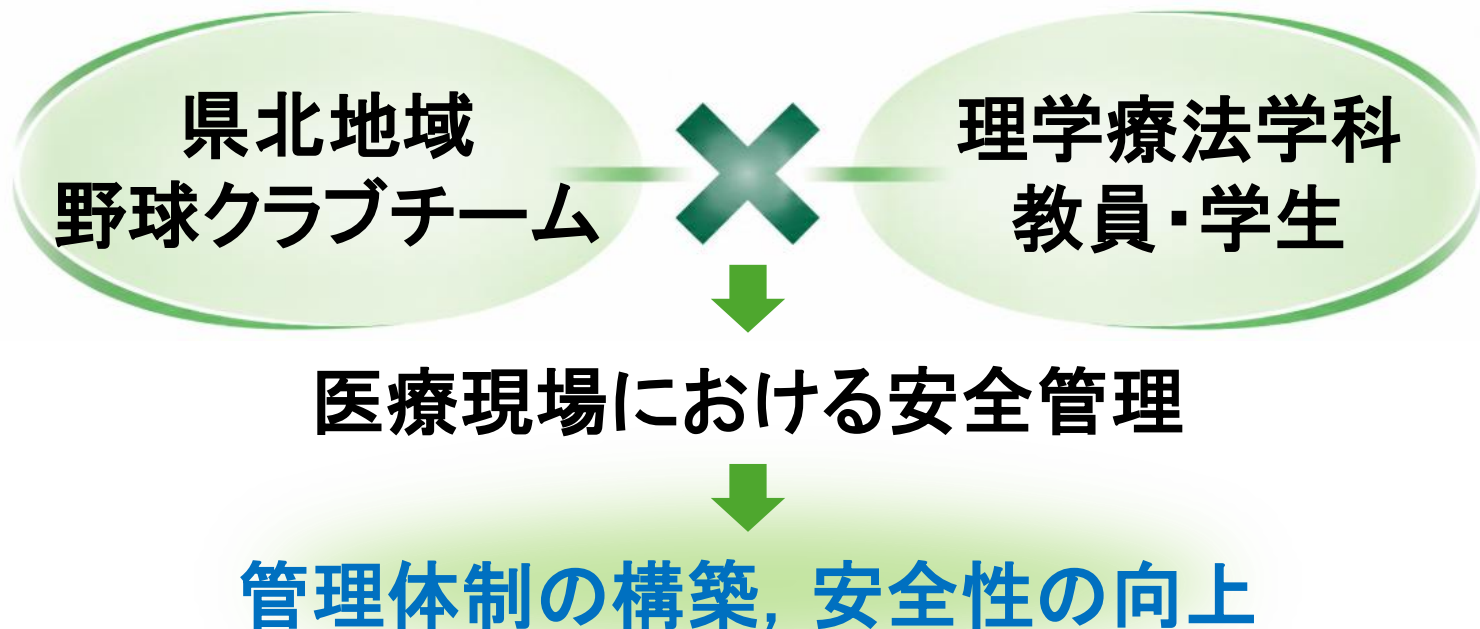
- **義務**：ボーイズリーグ
各チームによる練習、
試合時のAED携帯
- **義務**：ボーイズリーグ
用具審査による
安全性の確保

本事業における取り組み

▣仮説：立場による安全認識の違い

- ・選手（中学生），保護者，指導者では，
安全に対する認識が異なる
- ・安全管理体制の構築と，
地域スポーツ環境の安全性向上

▣事業内容



これまでの事業内容

▣事前打ち合わせ-学内

場所 : 大学

実施者 : PT学生, 教員

※アンケート使用した研究も検討
(倫理審査承認済み: 26-TC-033)

事前準備・アンケート項目の検討

▣事前打ち合わせ-学外

場所 : 各チーム練習場

実施者 : PT学生, 教員,
対象チーム



アンケート調査の協力依頼・事業内容の説明

これまでの事業内容

▣ アンケート調査

方法 : 紙の質問票とGoogle フォームによる実施

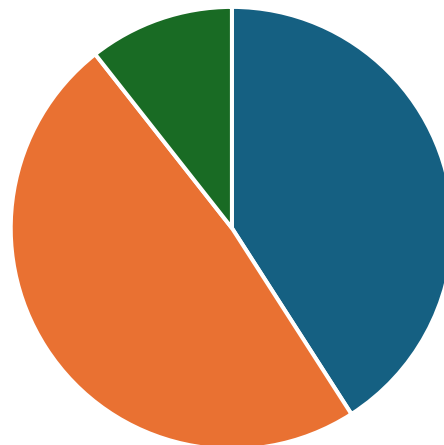
対象者 : 選手, 保護者, 指導者

内容 : 日常的に活動する環境の安全性について

▣ 結果

選手	:	27 名
保護者	:	32 名
指導者	:	7 名
計	:	66 名

アンケート内訳

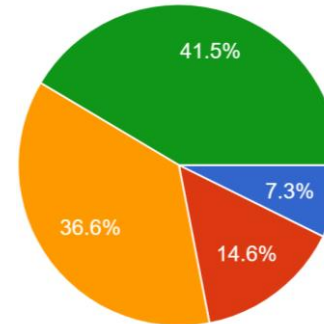


■ 選手 ■ 保護者 ■ 指導者

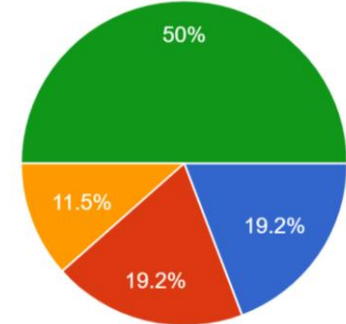
調査結果(抜粋)

▣練習・試合会場におけるAEDの設置場所を、
正確に把握している。

- 強くそう思う.
- そう思う.
- あまりそう思わない.
- 全くそう思わない.



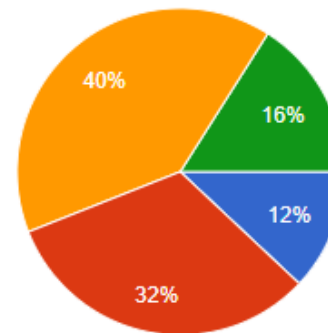
選手



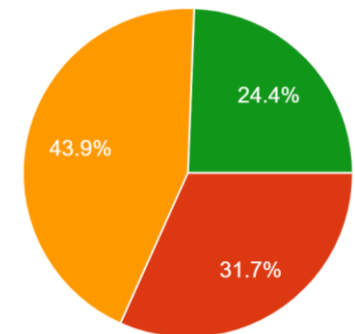
保護者・指導者

▣重大な事故や急病が発生した際の緊急連絡
体制や役割分担が組織内で共有されている。

- 強くそう思う.
- そう思う.
- あまりそう思わない.
- 全くそう思わない.



選手



保護者・指導者

調査結果(抜粋)

▣現在の安全管理体制について不安に感じることを教えてください。(自由記載)

選手

ネットが破損しており、
ボールが外に飛ぶ

ティーバッティング時の
打球の跳ね返りによる
怪我が不安

保護者・指導者

緊急時、BLS手順が
分からない

関係者が共通して
理解できる緊急時対応
マニュアルの作成

熱中症対策が不十分
(水分補給, 休憩時間)

今後の展開

▣ アンケート調査で把握した危険要因を
具体的な予防活動につなげる

現地での
安全管理

応急処置
予防

緊急時の
体制整備

危険箇所の確認
物品の整備
事故の防止

BLS・応急処置の実践
(外傷・熱中症)
危険予測・情報共有

AEDの設置場所と
緊急時の
通報手段の確認

▣ 到達目標

安全なスポーツ環境の実現へ